

年度	2007	学期	前期	曜日・校時	金/4	必修選択	選択	単位数	2
授業科目/(英語名)	平和講座 On the Peace								
対象年次	1・2年次			講義形態	講義	教室			
対象学生(クラス等)	全学部			科目分類	総合科学科目				
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員: 安部俊二 / Eメールアドレス: abe-s@net.nagasaki-u.ac.jp 研究室: 教育学部新館6階652研究室 / オフィスアワー: 水曜15時から16時まで								
担当教員(オムニバス科目等)	舟越耿一、安部俊二、藤澤秀雄、岩松繁俊、長崎新聞記者、篠崎正人								
授業のねらい/ この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身動労令などによって動員された若者たちが航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。 敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争をし、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。 本講座は、その決意を受け継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものである。 授業方法(学習指導法) / 各授業日ごとに、担当の講師が講義に必要なプリントを用意し、授業を行う。講師によってはビデオなども利用する。 授業到達目標 / 戦争の実態についての認識を深め、世界の情勢を深く理解し、基本的人権を尊重して自由と平和を愛する文化国家の建設に努める態度を身につける。									
授業内容(概要)	授業内容は多岐にわたるので、各講師がテーマを掲げて講義する。 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回(4月13日) 舟越耿一 「開講の辞:長崎及び文教キャンパスの二つの顔」 第2回(4月20日) 藤澤秀雄 「 受講の心得、及び成績評価の基礎資料となる特別レポートの作成要領について」 第3回(4月27日) 安部俊二 「十五年戦争 - 100年遅れのアヘン戦争として (1)」 第4回(5月11日) 安部俊二 「十五年戦争 - 100年遅れのアヘン戦争として (2)」 第5回(5月18日) 藤澤秀雄 「 小学生から見た日本の戦争裏話:九軍神、勤労奉仕、空襲、駐屯兵、強制連行など」 第6回(5月25日) 藤澤秀雄 「 日本の戦争(1)米国との戦争に至るまで:元寇、柳条湖事件、南京攻略作戦など」 第7回(6月 1日) 藤澤秀雄 「 日本の戦争(2)米国との戦争:ハワイ作戦から沖縄作戦まで」 第8回(6月 8日) 岩松繁俊 「 米国の日本の都市への原爆投下の目的・ソ連の対日参戦と日本の無条件降伏、天皇制問題、日本の戦争責任とアメリカの戦争責任」 第9回(6月15日) 岩松繁俊 「 原爆と原発の関係、被爆国日本の原発推進政策、核による人類破滅の危機、ラッセル・アインシュタイン宣言、反核・非核の運動」 第10回(6月22日) 新聞記者 「長崎原爆を報道する」 第11回(6月29日) 藤澤秀雄 「 アメリカ合衆国の戦争:米西戦争から湾岸戦争まで」 第12回(7月 6日) 舟越耿一 「イラク戦争と朝鮮有事」 第13回(7月13日) 舟越耿一 「平和的生存権と有事体制」 第14回(7月20日) 篠崎正人 「有事体制と長崎・佐世保 (1)」 第15回(7月27日) 篠崎正人 「有事体制と長崎・佐世保 (2)」 特別レポート作成に関する問い合わせは、藤澤秀雄まで (Tel: 095-882-5954)								
キーワード	各講師が掲げたテーマに記述されている言葉の外には、防塁、防空頭巾、高射砲、焼夷弾、米国の爆撃機(B17~B52)、枯葉剤、ナパーム弾、特高、特攻、特殊潜航艇、戦艦、航空母艦、原子力潜水艦、イージス艦、トマホーク、ICBM、軍人、軍神、二階級特進、靖國神社、従軍看護婦、慰安婦、慰問袋、千人針、劣化ウラン弾、								
教科書・教材・参考書	教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布する。 また、ビデオやスライドなどを利用して講義の理解を深めるのに役立つ。 最初の講義日に参考図書リストを配布する。								
成績評価の方法・基準等	出席を欠かさず受講することを重視する立場から、課題レポートの評価に、出席回数および担当講師が課したレポートの成績を加味する。								
受講要件(履修条件)									
本科目の位置づけ / 学習・教育目標									
備考(準備学習等)									